

コンチェルト体験会

～エレクトーン伴奏によるピアノ初心者のためのピアノコンチェルト～

西山 淑子

2015年7月27日に自主企画で、ピアノ・電子オルガンの先生のための『コンチェルト体験会』を行いました。これは、私が1993年から自宅教室の生徒のために編曲し続けている『エレクトーン伴奏によるピアノ初心者のためのピアノコンチェルト』をピアノ・電子オルガンの先生方に体験して頂いて、ピアノのレッスンに電子オルガンを活用するメリットを知っていただくという試みです。

電子オルガンは、□ソロで一人オーケストラを楽しむ楽器、□オペラやコンチェルトの伴奏楽器としての顔は定着していますが、教育楽器としての顔はまだまだ知られていない気がします。

私は、コンチェルトやオペラの伴奏を経験して、初心者のピアノレッスンに活用したら絶対楽しいし、目には見えない様々な効果があると確信して『エレクトーン伴奏によるピアノ初心者のためのピアノコンチェルト』を書き始めました。

最近、ピアノのレッスンに電子楽器を取り入れている先生も随分増えていますが、まだまだピアノのレッスンにはピアノだけで、電子オルガンのレッスンには電子オルガンだけで、という傾向が強いように思います。ピアノのレッスンに電子オルガンを活用することが普通になったら、日本のピアノ教育は変わる！と、私は密かに思っています。それには『電子オルガンもピアノも弾ける先生＝バイキーボードィスト』が増える必要があります。

『エレクトーン伴奏によるピアノ初心者のためのピアノコンチェルト』とは、ピアノを習い始めた子どもたちにこそ、最初から彩豊かな音色に包まれてアンサンブルを体験させたい!!という想いから生まれた作品で、ピアノパートのレベルは、片手、やさしい両手～ソナチネまでとしました。誰でも知っている歌、ピアノの教本として欠かせないバイエルやブルグミュラー、ソナチネ、発表会の定番曲を素材にしています。各々ストーリーでいを持たせ、電子オルガンの多彩な音色や機能を活用して『弾いて楽しい、聴い

て楽しい』作品です。

体験会では、私がこのような作品を書くに至った経緯や「得られるもの」をお話した後、実際に弾いて頂きました。

話の内容は以下の通り。

♪基本はアンサンブル～全ては音楽的な演奏のために～

そもそも、この作品を書くことになったきっかけは、音大での授業でした。ML教室でのキーボードハーモニーのような内容の授業でしたが、オーケストラのスコアを一人1パートでアンサンブルした時、ピアノ科のクラスは「合わない」のです。ブレスをしない、指揮を見ないという状態でした。一方、菅・打楽器のクラスはすぐに「合い」ました。

小さい時からほとんど一人で弾いてきたピアノ科と吹奏楽などで常にアンサンブルをしてきた菅・打楽器科。この差は、習慣、経験の他の何ものでもないと感じました。

そこで、私のところに来てくれる生徒たちには、初めからアンサンブルを体験させてあげなければ!と思い、この『コンチェルト』を書き続けているわけです。

●『合わせる』ことで、アインザッツ、ブレスが自然にできるようになります。頭合わせや掛け合い、受け渡しなど、相手がいることで、目を合わせ、体全体で合図する。まさに「息を合わせる」ことが否応なく出来て、それは自然なフレーズング＝音楽的ということに繋がります。

●『相手の音を聴く』ことで、耳が鍛えられます。テンポ、音量バランス、ひびき（和声感）、音色...様々なことに気を使って聴かなければいけません。これは、究極のソルフェージュです。

●『一人じゃない』ことで、思いやり、協調性、責任感といった、人として大切なことも身に付き、みんなの一つのものを作る喜びは心を育てます。

「一人で音楽を完結できる鍵盤楽器やハーブ、ギタ

一などは特殊な楽器」という意識を持つことも大切です。また、打ち込みデータやマイナスイオン（カラオケ）に合わせるのではなく、生で合わせて初めて「アンサンブル」と言えます。

こうしたアンサンブル体験は、ソロの演奏にも必ず反映されます。

♪編曲の意図～こんなことを願って書いた～

- ・まずは、1：1のアンサンブルから（同時に日常のレッスンや発表会の楽器調達のことを考えると1台がベスト）
- ・相手の音を聴きながら、色々な音に包まれて弾く→耳を鍛える
- ・音の色彩を感じる→曲想と楽器（音色）の結びつき。
- ・複数パートを同時に見る→スコアリーディングに繋げる
- ・調号アレルギーをなくす→できるだけ、必ず転調する
- ・ストーリー性を持たせる→それにふさわしい表現方法を考える＝想像力を働かせる

♪電子オルガンを使うメリット

「一人で同時にいろんな音が出せる」という、この楽器の特徴を活かし、彩豊かな音に包まれてピアノを弾くことで、想像力が増し、曲想の捉え方もより具体的になります。オーケストラで使われる楽器音だけでなく、様々な電子音も取り入れることで、より楽しい空想の世界へも誘えます。また、どうしてもクラシックに偏りがちなピアノレッスンを多様なジャンルに広げることが容易にできます。

バーチャルではあるけれど、限らない音の体験ができます。

アンサンブルはピアノだけ（連弾、1台、2台・・・）でもできますが、多彩な音色という点で、ピアノだけではできないプラスα効果は非常に大きいものであることは確かです。

この『コンチェルト』はピアノのレッスンでの電子オルガンの活用法の最たるものですが、その他にも色々活用できます。その活用例も少し紹介しました。

♪リズム機能を使って

- ・リズム打ち、聴唱・奏のとき、適当なリズムを流しておく
- ・ポップス系の曲のとき、その曲にふさわしいリズム

ムに合わせて弾く（メトロノーム代わり）

♪持続音で

- ・色々な楽器音で弾く→ピアノにはできない持続音の体験
- ・アーティキュレーションや音符の長さを明確にできる
- ・ *cresc.dim.*

♪手鍵盤2段+ペダルという形

- ・メロディー、ハーモニー、ベースという音楽の成り立ちを理解しやすい
- ・聴音（聴唱・奏）で、常に伴奏（ベース+ハーモニー）が付けやすい
- ・ポリフォニックな曲を音色を変えて弾ける
- ・オーケストレーション→そのフレーズに相応しい楽器を考える

その他、私がふだんのレッスンで心がけていることなどもお話ししました。

- ・歌う→ブレスの場所、自然なフレーズ
- ・和声感（T,S,D）を養う
→スケール、カデンツノート

に自分で書く。

*カデンツノートは、見開きで同主調で並べ（左：Major、右：minor）、和声記号とコードネームを書き込む。書いたら弾く。

- ・しかけを見つける（同じところ、違うところ、など）→分析力、形式の把握に繋がる。
- ・下敷きとなった曲を聴く名曲を→名曲を聴くチャンス！作曲家とその国、時代、楽器について。オケスコアを見せる。
- ・楽譜をきちんと読む→ふだま以外の記号や楽語も意識させる。

♪詰まるところ

- からだを使って、何かを完成させるということを経験し、やり遂げた時の達成感、充実感を味わいながら育ってほしい。
- アンサンブル+ソルフェージュで、生涯楽しめる音楽力を！！

参加された先生方からは、次のような感想をいただきました。

- ・習い初めの子からソナチネ程度までピアノの生徒にもエレクトーンでアンサンブル感覚を体験できるのは素晴らしいと思う。
- ・ピアノのソロ曲が、エレクトーンの音色が入ることで曲に広がりが出て、さらに素敵な曲になっているのが実感できました。
- ・合わせることの大切さ、難しさを実感し、アンサンブルをレッスンの中でどんどん取り入れていきたいと思えます。
- ・エレクトーンをピアノレッスンに効果的に取り入れることで音楽の幅が広がってゆきます。もっともっとピアノの生徒にエレクトーンを使っていきたいと思えます。
- ・初心者でもこのようなオーケストラの溢れる音の中で弾かせてもらったら、さぞ楽しいだろうなと思いました。子どもだけでなく大人の初心者にも受けると思いました。
- ・カデンツノート、すばらしい！早速導入します。
- ・ソロの印象が強いピアノですが、他楽器とのアンサンブルで、より違った雰囲気音楽が楽しめるのが大切だと思いました。
- ・全員が参加型で実際アンサンブルできるのがすごく楽しかったです。
- ・講座の最初で、日本人はメロディーばかりでハーモニーを聴かないと、国際コンクールの審査員が言っていたというエピソードは、本当にその通りだと思った。ヨーロッパでは、もっと室内楽をやるのに、日本では

ピアノはソロばかりなので、もっと自分のレッスンでもアンサンブルを取り入れて行きたい。

- ・ふだんのレッスンでは、ピアノの生徒さんにはエレクトーンの伴奏を簡単につけるようにしています。アンサンブルを通して耳をそだてていく先生の考えに共感します。
- ・エレクトーンが指導ツールとしてもっと可能性があることを再認識しました。

などなど、たくさんの感想をいただきました。

アンサンブルは大事だと思われる先生、電子楽器にも興味を持ってくださる先生方がまだまだたくさんいらっしゃると実感できました。

一方、これから電子オルガンを始めることに躊躇されるピアノの先生も多くいらっしゃいますので、そういう先生方に電子オルガンを始めていただく手立てを考えることも今後の課題の一つだと思いました。

『バイキーボーディスト』が増えることを願って、この体験会は定期的に続けようと思っています。

今回は、12月11日（金）10：30～12：30
場所 沖ミュージックサロン（東京都文京区千石）です。

参考音源

<https://www.yoshikonishiyama.com/movie>

（昭和音楽大学講師 にしやま よしこ）

